

## 1

## Louis Vuitton Malletier

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2004年のADEMEによるBilan Carbon (GHG排出量算定ツール)の公開をきっかけに、フランス国内における革製品の輸送などに関する算定を推計によって把握することを始めた。</li> <li>● 2010年からは原材料の調達から店頭での販売まで世界中の排出を、多くの一次データを用いて算定を行っている。現在は自主的に算定を行っているものの、今後はより厳しい情報公開が求められることを見据えて取組んでいる。</li> <li>● また、Scope3も含めた算定を行うことで、サプライチェーンのどこに削減ポテンシャルがあるかを特定することができ、戦略を立てることが可能になる。</li> </ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛知万博への出展時にBilan Carboneでの計算結果を初めて公開し、プレス発表なども行った。</li> <li>● また、フランスのグルネル第2法に対する報告内容を公開している。</li> </ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Louis Vuittonでは最も大きな排出である輸送について輸送業者とともに取組を行っており、輸送手段の最適化、航空機、トラック、船舶などの高効率化を目指している。</li> </ul>
□ 算定方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Louis Vuittonのサプライチェーンの内、排出量の最も大きな輸送段階に焦点を当てて算定を行っており、独自に開発した算定ツールが用いられている。</li> <li>● このツールによって、より正確で世界規模での算定を行うことが可能となっている。</li> </ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Louis Vuittonでは多くの取組を行っているが、輸送に伴う排出に焦点を当て、ツールを使って算定や削減の取組みを行っている。</li> <li>● また、ボランティアなBilan Carbone*を使って各支社の排出量の算定も行っている。</li> </ul> <p><small>*フランスのADEME (French Agency for the Environment and Energy Management) が提供するカーボンフットプリントの算定ツール</small></p>

	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境に対する優れた取組を行うことが可能な輸送業者を選定するため、国際輸送の入札を行うとともに、サプライヤーから自社の工場までの輸送に伴う排出を極力少なくするルートを確立している。</li><li>● また、製品出荷時のパッケージを減らすことで、海運での輸送量を削減しており、排出削減につなげている。</li></ul>
□ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● Louis Vuittonでは、自社の向上から倉庫、販売店までの全体としてISO14001の認定を受けているが、今後も引き続き輸送業者のフォロー、トーニングを行っていくことが重要であると認識している。</li><li>● サプライチェーンでの排出量算定、削減の取組みは今後も重要である。</li></ul>
□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 主要な製品は何か、といった自社の事業において重視すべき部分を見極めた上で、算定範囲を広げていくことが重要である。</li><li>● サプライヤーからデータを収集することには限界があるため、全てのサプライヤーからScope3に関するデータを収取する必要はない。</li><li>● 重視する部分に範囲を絞って算定を始め、その後データの正確性などを改善していくというアプローチが望ましい。</li></ul>